



行事予定

JICHI Information

- 9月**
- 15日 [火] 看護学部長補佐会議
 - 16日 [水] 総合防災避難訓練（さいたま）
 - 18日 [金] 看護師特定行為研修管理委員会・運営委員会
 - 24日 [木] 大学院医学研究科委員会
医学部教授会・教授総会
看護学部教授会・教授総会
看護師特定行為研修センター修了式
診療代表者会議（栃木）
 - 25日 [金] 実験動物慰霊の会
第1回大学院医学研究科入学試験合格発表
ボウリング大会（栃木）
 - 28日 [月] センター診療部代表者会議
- 10月**
- 7日 [水] 学生委員会
 - 8日 [木] 総合防災避難訓練（栃木）
 - 9日 [金] 薬師祭（10/11まで）

就任のごあいさつ

地域医療学センター長に就任して

地域医療学センター
後 藤 忠 雄

このたび、地域医療学センター長を拝命いたしました後藤忠雄です。私は平成元年に自治医科大学を卒業して以来、30年以上にわたり、岐阜県郡上市を中心とした中山間地域・へき地で地域医療に携わってきました。令和6年度からはクロスアポイントメント制度により地域医療学センター地域医療支援部門に着任し、地域の現場と大学の双方に身を置いて活動してきましたが、令和8年7月から自治医科大学常勤となり、地域医療支援部門に加え、小谷先生のもと地域医療学部門教授を兼任するとともに、地域医療学センター長を務めることとなりました。

自治医科大学は、地域医療・へき地医療を担う総合医の育成を使命として設立され、半世紀にわたり全国の卒業生とともに我が国の地域医療・へき地医療を支えてきました。地域医療学センターもまた、歴代センター長をはじめ多くの先生方のご尽力により、地域医療を担う人材の育成、教育・研究の推進、地域医療学の体系化などに取り組み、本学の地域医療教育・研究の中核として発展してきました。まずは、これまで築かれてきた歩みと理念を大切に受け継ぐことが、私の役割であると考えています。そのうえで、地域医療が大きく変化するなか、これからのセンターの役割について、皆さまとともに考えていきたいと思っています。

私自身、地域医療の現場では、日々の診療だけでなく、病院の診療所化、複数の診療所を結ぶネットワークづくり、自治体を越えた広域的な医療連携、病院の機能転換など、地域の医療をどのように維持し、次の世代へつないでいくかという課題に取り組んできました。また、その過程で医療・介護連携や保健事業、行政との協働にも携わってきました。そこで学んだことの一つは、地域医療には一つの「正解」があるわけではないということです。人口、地理、歴史、文化、医療・介護資源、そしてそこで暮らす人々の思いは地域ごとに異なります。地域医療とは、単に医療を提供することではなく、地域住民の暮らしを支えるために、住民をはじめ、医療・保健・福祉・行政など、地域に関わるさまざまな人々がともに築き、支えていく営みではないかと考えています。

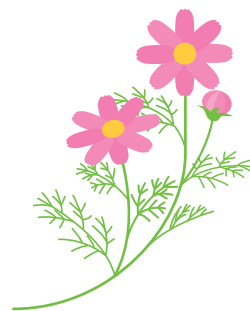
人口減少、高齢化、医師をはじめとする医療従事者の不足・偏在、多疾患併存への対応など、地域医療を取り巻く環境は今後さらに厳しさを増していきます。一方、全国各地には、自治医科大学卒業生をはじめ、多くの方々がそれぞれの地域の課題に向き合い、工夫を重ねてきた数多くの実践があります。こうした現場で培われてきた「実践知」は、これからの地域医療を考えるうえで大切な財産です。地域医療学センターが、全国各地の実践から学び、それらを教育や研究を通じて整理し、その成果を再び地域へ還元していく。そのような

「地域医療の知のハブ」としての役割を、これまで以上に果たしていければと考えています。自治医科大学には、全国47都道府県に広がる卒業生のネットワークがあります。また、卒業生とともに地域医療・へき地医療を支えてくださっている多くの医療・保健・福祉・行政関係者がいます。現場から大学が学び、大学でその知を深め、再び地域へ還元する。この「知の循環」を少しずつ育てていくことができればと思います。

そのための大きな力となるのが、地域医療学センターを構成する八つの部門です。現在、センターには、地域医療学、地域医療支援、医療政策・管理学、公衆衛生学、総合診療、人材育成、ヘルス・エクイティ地域共創、東洋医学という、それぞれ異なる専門性を持つ部門があります。この多様性は、センターの大きな強みです。それぞれの部門が専門性を発揮するとともに、必要に応じて部門の垣根を越えてつながることで、地域医療・へき地医療をより多面的に捉え、新しい教育・研究・実践につなげていくことができるのではないかと思います。そして、大学として大切な役割の一つが教育です。地域医療を持続させるためには、制度や仕組みだけでなく、次の世代を担う人を育てなければなりません。自治医科大学の学生には、疾患や臓器だけを見るのではなく、一人の人を総合的に診る力、その人の生活や人生を見る力、さらにその人が暮らす地域まで視野に入れて考える力を身につけてほしいと思います。すべての卒業生が総合診療を専門とするわけではありません。しかし、どの専門領域に進んでも、患者さんの生活や地域を視野に入れる「総合的な視点」は、自治医科大学で学んだ医師にとって大切な力ではないでしょうか。学内のさまざまな講座・部門、そして学外で教育に携わってくださる多くの施設と連携しながら、地域医療・へき地医療の実践から得られた知を学生教育へ還元し、地域を支える実践力と総合的な視点を備えた医療人を育てていくことも、センターの大切な役割だと考えています。

地域医療・へき地医療のあり方に、完成形はありません。社会が変われば地域も変わり、求められる医療も変わります。だからこそ、現場に学び続け、多様な立場の方々と対話し、考え、試み、その経験を次の地域、次の世代へつないでいくことが大切だと思います。八つの部門がそれぞれの専門性を生かし、全国の地域や卒業生、地域医療に関わる多くの方々とともに学び合えるセンターにしていきたいと思います。そして、地域医療・へき地医療の実践から学んだことを未来へつなぎ、我が国の地域医療・へき地医療に少しでも貢献できるよう努めてまいります。

松村先生をはじめ歴代センター長、諸先輩方が築いてこられた歩みを大切に受け継ぎながら、微力ではございますが精一杯努めてまいります。皆さまには、今後とも地域医療学センターへのご支援、ご指導を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



第20回自治医科大学医学部広報フォーラムが開催されました

学事課

7月4日(土) 東京都千代田区の全国町村会館において第20回自治医科大学医学部広報フォーラムが開催されました。

医学部では、より充実した広報活動の実施と志願者の数・質の向上を図ることを目的として、平成17年度より各都道府県からご推薦いただいた卒業生を「医学部学外広報委員」として委嘱し、本学の広報活動の一翼を担っていただいております。

今回のフォーラムでは、学外広報委員の先生方17名にお集まりいただき、大学側からは永井学長、大槻副学長、武藤入試検討委員長、阿江医学部広報委員長をはじめ医学部広報委員並びに広報戦略委員の先生方、各地の大学説明会などにご支援いただく卒後指導部、卒後指導委員会並びに都道府県担当の先生方25名にご出席いただきました。

またオンライン配信も併せて実施し、学内の先生方より12名、学外広報委員の先生方23名にご参加いただきました。

永井学長からご挨拶をいただいた後、阿江医学部広報委員長から本フォーラムの趣旨並びに令和8年度入試広報活動の結果と令和9年度入試に向けた広報活動の概要について、続いて武藤入試検討委員長から令和8年度入試結果、令和9年度入試の概要及び年内入試について説明がされました。その後、学外広報委員の市村尚之先生(山口県40期)及び大林航先生(東京都28期)から大学説明会等の主な広報活動の状況をご報告いただきました。最後に阿江医学部広報委員長から総括をしていただき、今後の広報活動を充実させるための貴重な時間となりました。

また、会議終了後には懇親会が行われ、広報活動の重要性について活発な意見交換が行われ、さらに親交を深めることができました。



永井学長



阿江医学部広報委員長



参加者集合写真

2026夏季セミナー in Jichi が開催されました

卒後臨床研修センター

7月18日(土)、19日(日)の2日間にわたり、全国の医学生を対象とした「2026夏季セミナー in Jichi」が開催されました。このセミナーは、研修医確保強化策の一環として、各診療科の協力のもと春・夏の年2回開催しており、今回は全国(北海道～長崎県)から40名の医学生が参加しました。

初日は、間藤尚子卒後臨床研修センター長の挨拶で始まりました。その後、各診療科別のコースに分かれ、経験豊富な講師陣による技術指導や講習が2日間行われました。

コースの中には、初期研修医がルート確保・採血等を指導するものもあり、手技だけではなく勤務内容やプライベートのことまで初期研修医から話を聞くことができ「自治医科大学で研修を行う魅力を感じました」と大変好評でした。

セミナー名物である謎解きクイズ“クエストJ”は4～5人のチームに分かれて行い、「他の大学の方と協力して課題に取り組む機会はなかったので、とても貴重な経験をすることができました」「同じ医師を目指す者同士であったが、チーム医療の大切さと、意識していないとできない難しさも学ぶことができた」などの感想をいただきました。

今回の夏季セミナーでは全18診療科にご協力いただきましたが、いずれの科においても講師陣の熱心で丁寧な指導や講習は大変好評で、「どの科も自大学の実習では見ることはできない手技を体験でき、とてもためになった。また知識の面でも多くの学びが得られとても充実した2日間だった」「各診療科の先生方の雰囲気に触れたり、研修医の先生方と交流したりと、自治医科大学での研修を具体的にイメージすることができた」などの感想とともに、ご協力くださった関係各所への感謝の気持ちが多く聞かれました。また参加したいというお声も多く、盛会のうちに2026夏季セミナー in Jichiは終了しました。

最後に、当セミナーの開催にあたりご尽力いただきました関係各位に、卒後臨床研修センタースタッフ一同より、深く感謝申し上げます。



レジデント(採血・ルート確保)



皮膚科



呼吸器内科・外科



心臓血管外科



麻酔科・ICU



クエストJ(自治医大版謎解き)

医学部オープンキャンパスが開催されました

医学部広報委員会、学事課

今年度の医学部オープンキャンパスは、7月25日(土)、8月7日(金)に開催されました。

全国各地から多くの方にご参加いただき、参加者総数は1,267名でした。

大槻副学長による開会の挨拶に続き、阿江教授(公衆衛生学)より「教育内容と特色」について説明がありました。その後、学生の玉城日華梨さん(2年)、鈴木雄大さん(3年)、平こころさん(5年)、吉田夏希さん(6年)から「学生生活」を紹介した後、本学卒業生の伊藤誉准教授(消化器一般移植外科)、叶城倫子先生(岩手県立磐井病院 麻酔科)が自身の体験を交えた「卒業生の体験談」を紹介すると、参加者は真剣な表情で聞き入っていました。

また、医学部における授業がどのようなものかを実際に見て、聞いて、知ってもらい、医学教育の魅力に触れていただくための模擬講義を実施しました。講師は7月25日が宮道亮輔学内准教授(メディカルシミュレーションセンター)、8月7日が山本祐准教授(地域医療学センター総合診療部門)でした。

さらに、参加者から学生生活、入試、卒業後の勤務など様々な質問を在学学生、教職員が受ける「個別相談ブース」の設置、巡回バスによる医学部教育・研究棟、医学部学生寮、メディカルシミュレーションセンター、図書館及びATLAS ARENA(体育関連施設)を巡る施設見学を行いました。

今年度の医学部オープンキャンパスを実施するにあたり、多大なるご理解とご協力をいただきました教職員・学生の皆様に心より厚く御礼申し上げます。

2026年度オープンキャンパス参加者数

区 分	参加者総数	内 訳	
		学生	保護者他
第1回(7/25)	679	336	343
第2回(8/7)	588	322	266
合 計	1,267	658	609



大学説明会：教育内容と特色、学生生活、卒業生の体験談の説明



個別相談ブース



シミュレーター体験



学生寮見学



協力学生

とちぎ子どもの未来創造大学「本物」体験講座が開催されました

企画広報課

栃木県では、県内の高等教育機関、民間企業等と連携しながら、子どもたちに「本物」に触れる学習機会を提供する「とちぎ子どもの未来創造大学」を開催しています。

本学では、感染・免疫学講座医動物学部門、皮膚科学講座、先端医療技術開発センター・外科学講座に加え、今年度は整形外科学講座及び小児科学講座にもご協力いただき、約70名の学生に「本物」を体験してもらいました。

各講座では、実際の医療や研究に関連する実験・観察・グループワークなどが行われ、参加者は熱心に取り組んでいました。

講師の先生方をはじめ、開催にあたりご協力をいただいた関係の皆様方にこの場を借りて御礼申し上げます。

講 座 名	講 師	参加対象	開催日
虫のいいムシ？ 寄生虫を観察してみよう	感染・免疫学講座 医動物学部門	小学4～小学6年生	7/27(月)
			7/28(火)
医療の進歩はどうやって作られる？ ～「臨床」と「研究」の現場を見てみよう～	先端医療技術開発センター 外科学講座	中学1～中学3年生	7/28(火)
皮膚の健康と社会生活について考える	皮膚科学講座	小学5～中学3年生	8/5(水)
骨のかたちはなぜ美しい？ 体を動かすデザインの秘密	整形外科学講座	小学6～中学3年生	8/18(火)
こどもの急変対応を学ぼう ～AEDの使い方、勇気の出し方を教えます～	小児科学講座	小学4～中学3年生	8/21(金)



虫のいいムシ？ 寄生虫を観察してみよう



医療の進歩はどうやって作られる？ ～「臨床」と「研究」の現場を見てみよう～





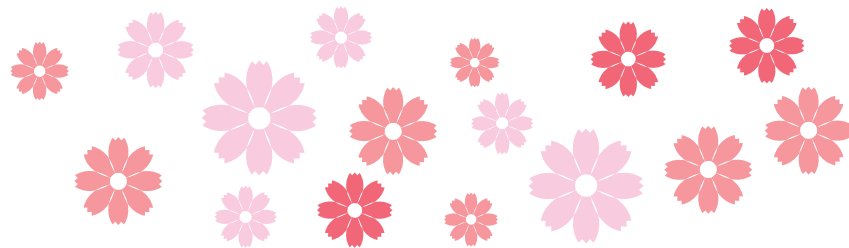
皮膚の健康と社会生活について考える



骨のかたちはなぜ美しい？体を動かすデザインの秘密



こどもの急変対応を学ぼう～AEDの使い方、勇気の出し方を教えます～



高校生小論文・プレゼン動画コンテスト 「地域医療プレ体験キャンプ」が開催されました

医学部広報委員会、学事課

医学部では優秀な学生の確保を目的に、高校生小論文・プレゼン動画コンテストを開催しております。今年度は「10年後の私と私のまちの地域医療」というテーマで全国の高校生から多数の応募をいただき、審査の結果選ばれた入賞者を、7月30日(木)～7月31日(金)の地域医療プレ体験キャンプに招待しました。

1日目は、模擬講義、体験実習(心肺蘇生、気管挿管、超音波検査、気管支鏡、手洗い体験)ののち、表彰式を行いました。夕食では、特別審査員や教員、在学生との懇親会が行われ、その後、高校生にはレジデントハウス臨泊室または看護師宿舎臨泊室に宿泊いただきました。2日目は、グループ討論、研究室見学(生化学講座病態生化学部門)、鏡視下手術手技・糸結び・ダビンチシミュレーター体験をしていただきました。

参加した高校生からは、「普段は触れる機会のない医療機器を実際に操作したり、研究施設を見学したりすることができ、大変貴重な体験となった。」「地域医療について、全国から集まった同世代の仲間とともに理解を深め、自分に何ができるのかを考えるきっかけとなった。」との感想をいただきました。

最後に、本企画の開催にあたりご協力をいただいた教職員、学生の皆様に、この場を借りて心より御礼申し上げます。

【高校生小論文・プレゼン動画コンテスト結果】 (敬称略)

大賞

小論文部門

栄東高等学校

3年

山内 萌愛

プレゼン動画部門

東京女学館高等学校

2年

中野 令娜

優秀賞

小論文部門

茨城県立古河中等教育学校

1年

深谷 結花

神戸女学院高等学部

2年

柴田 穂香

静岡県立清水東高等学校

3年

辻 日桜里

鹿児島高等学校

3年

岡江 優音

プレゼン動画部門

湘南白百合学園高等学校

1年

田中 彩里衣

さいたま市立大宮国際中等教育学校

2年

大野 聖恵

※他の入賞者・受賞作品は本学ホームページをご覧ください。

☆入賞者 →



☆受賞作品 →



特別審査員、教員、在学生、入賞者の皆さん



模擬講義



グループ討論



気管挿管



手洗い体験



ダビンチシミュレーター体験



研究室見学

宇都宮ブレックス #6 比江島 慎選手と#028 ブレッキーが とちぎ子ども医療センターに遊びに来てくれました！

総務課

8月6日(木)、宇都宮市をホームタウンとするプロバスケットボールチーム宇都宮ブレックスの比江島選手とチームマスコットのブレッキーがとちぎ子ども医療センターに入院中の子どもたちのところへ遊びにきてくれました。

比江島選手とブレッキーはクリエイティブルームでシュート体験を行ったあと、各病棟を回り子どもたちと触れ合いました。入院中の子どもたちは元気をもらえたようでみんな笑顔になっていました。

宇都宮ブレックスの皆さん、この度はありがとうございました！

来る2026-27シーズンでもご活躍されますことをお祈りします。



#6 比江島 慎選手



シュート体験の様子

理事会・評議員会を開催しました

理事室

8月20日（木）11時30分より、自治医科大学創立20周年記念棟において、理事会を開催しました。
審議された議案は、次のとおりです。

- 議案第1号 自治医科大学医学部入学定員の増員
- 議案第2号 令和8年度における基本財産の処分
- 議案第3号 会計監査人に対する報酬等
- 議案第4号 評議員会の招集

審議の結果、議案第1号から第3号について、原案どおり承認されました。

議案第4号では、令和8年8月31日（月）に評議員会を招集することについて承認されました。

また、報告事項として、理事の職務執行状況報告がなされました。

8月31日（月）11時30分より、都道府県会館（東京都千代田区）において、評議員会を開催しました。
審議された議案は、次のとおりです。

- 議案第1号 監事の選任
- 議案第2号 常勤監事の選定

議案第1号では、監事として平口愛一郎氏（一般財団法人全国市町村振興協会業務執行理事）が選任されました。

議案第2号では、常勤監事として平口愛一郎氏が選定されました。

次回は、令和8年11月下旬に、自治医科大学創立20周年記念棟において、理事会を開催する予定です。



看護学部オープンキャンパスが開催されました

看護学務課

8月22日(土)、23日(日)、看護学部校舎において「第2回・第3回看護学部オープンキャンパス」が開催されました。

2日間で学生471名、同伴者447名の計918名が来場し、模擬授業や学内見学、相談コーナーなどを通して、本学部の学びや学生生活を体験していただきました。特に、在学生と直接交流できる「学生広場」は待ち時間が発生するほど大盛況となりました。

また、新たな企画として、NHK、大田原市、ナガイレーベン株式会社の協力のもと、「大関和（おおぜきちか）」に関連した特設ブースを設置しました。明治から令和までの看護服や大関和の歴史、NHK朝ドラ「風、薫る」の関連資料などを展示し、看護の歴史に触れていただきました。さらに、来場の記念となるフォトスポットも設置し、多くの方に楽しんでいただきました。

多くの在学生がボランティアとして運営に参加し、学生広場や会場案内などで来場者に丁寧に対応しました。参加者からも「学生の対応がすばしかった」「学生が自信をもって学びを説明してくれた」など、学生及び教職員の温かな対応を評価する声が多く寄せられました。

今回のオープンキャンパスでは、医学部Instagramを通じた広報にもご協力いただき、幅広い層への情報発信と来場者の集客につなげることができました。本学部の広報活動にご協力いただきました医学部広報ご担当者の皆様に、心より感謝申し上げます。

2日間を通して、本学部の学びや魅力、そして在学生のいきいきとした姿を多くの皆様に知っていただく機会となりました。

開催にあたり、ご協力いただきましたNHK、大田原市、ナガイレーベン株式会社をはじめ、医学部広報ご担当者、附属病院看護部職員、ならびに学生の皆様に、心より御礼申し上げます。



学部説明会の様子



附属病院説明会の様子



学生広場の様子



フォトスポットの様子

「松韻会（しょういんかい）県北地区懇談会」が開催されました

松韻会事務局・学事課

8月22日（土）10時30分から「那須塩原市図書館みるる」において令和8年度「松韻会県北地区懇談会」が開催されました。松韻会の地区懇談会は、県内を県北・県央・県南の3ブロックに分け各地区の会員相互の親睦と大学との交流並びに情報の共有を図ることを目的として、毎年各地区持ち回りで行っているもので、県北（那須塩原市）で開催するのは令和5年以来3年ぶりです。今回の地区懇談会は、会員をはじめご家族や大学教職員を含め、約50名が参加しました。

保坂広至監事の開会宣言に続き、成願（じょうがん）者（今までご献体くださった方々）に対する黙祷を捧げた後、大塩宗里松韻会会長の挨拶があり、大学を代表して山本靖博大学事務部長から挨拶がありました。

講演会では、医学部解剖学講座教授の西村渉先生から「最近の医学教育改革の動向」と題した講演をいただきました。西村先生による分かりやすい解説に、参加者は医学教育の進化（深化）や今後の課題等を知って感銘を受けるとともに、あらためて医学部学生の教育の「質」と「量の多さ」に驚いた様子でした。また、学生を教育する先生方の苦勞も紹介されました。

休憩を挟んで懇談会（質疑応答）が行われ、献体に限らず様々な悩みや不安を抱える会員の現状を知る機会となるとともに、本会の役割の重要性を再確認いたしました。

今年度の県北地区懇談会は盛会かつ和やかなうちに終了となり、来年度は、県央（宇都宮市）で開催される予定です。



大塩宗里 松韻会会長 挨拶



山本靖博 大学事務部長 挨拶



講演中の西村渉 解剖学教授



会場の様子



障害者雇用について

人事課

身体障害者、精神障害者又は知的障害者の雇用については、国が定める障害者雇用促進法により、事業主に対し、事業規模に応じた人数の雇用が義務付けられております。いわゆる法定雇用率と言われ、本学としてもその充足に向け、ハローワーク等と連携し、求職情報の把握等雇用に向けた努力をしているところです。

令和8年7月からは法定雇用率が2.5%から2.7%に引き上げられましたが、令和8年7月以前の時点でも、法定雇用率を満たすことができておらず、従来以上に障害者雇用の確保が求められる状況となっています。

新たに障害者手帳を取得された方がおられましたら、不利益になるようなことはございませんので、人事課までお知らせください。

総務部人事課

内線 2005・2006

外線 0285-58-7013

私学事業団・積立貯金後期募集について

人事課

私学事業団・積立貯金の後期募集を次のとおり行いますので、希望される場合は、お申し込みください。

- 1 募集内容** 新規加入
積立金額の変更
積立中断の復活
- 2 申込受付** 大学・附属病院 9月28日(月)から10月19日(月)まで人事課給与厚生係へ
さいたま医療センター 9月28日(月)から10月16日(金)まで総務課総務係へ
- 3 その他** 手続きには印鑑と私学共済の加入者番号が必要になりますので必ずご持参ください。
(印鑑はスタンプ印でないもの、積立金額の変更及び積立中断の復活については加入時の印鑑)
11月給与から積立となります。

私学共済加入者番号の確認方法については、以下のQRコードをご参照ください。



【問い合わせ先】

人事課給与厚生係
内線：3214、3432、3221
外線：0285-58-7015

さいたま医療センター市民公開講座開催のお知らせ (令和8年度第1回)

さいたま・総務課

今年度第1回の市民公開講座を次のとおり開催いたします。
職員、ご家族の方で興味のある方は、ぜひご参加ください。

- | | |
|-----------|--|
| 1. 日 時 | 令和8年10月10日(土) 13時00分～15時30分 |
| 2. 場 所 | さいたま医療センター 南館2階 講堂 |
| 3. メインテーマ | 未来の健康を守る
～女性も男性も知っておきたい「がんの話」と「心血管疾患へのロボット手術最前線」～ |
| 4. 演題・講師 | 講演①「前立腺がん治療の最近の進歩」
鷲野 聡 准教授(泌尿器科)
講演②「ロボット支援下心臓手術について」
藤森 智成 助教(心臓血管外科)
講演③「知っておきたい婦人科がん ～早期発見と最新治療～」
黄 弘吉 病院助教(産婦人科) |
| 5. 定 員 | 120人(先着順) |
| 6. 受 講 料 | 500円(当日受付にて徴収) |
| 7. 申込み方法 | 電話または電子メールでお申し込みください。 |
| 8. 問い合わせ | さいたま医療センター 総務課総務係
TEL 048-648-5219(直通)
e-mail o-koukaikouza@jichi.ac.jp |

○詳細は、さいたま医療センターホームページの「センターからのお知らせ」をご覧ください。

～日光研修所のご案内～

人事課

学生も卒業生も、ご家族もご利用いただけます！
レジャー・観光の際にぜひご利用ください！

＊ご利用料金(1泊2食付／1名様)
大人の場合：5,050円
幼児の場合：1,400円

＊日光研修所では、季節の食材を使用したお料理を提供しています。

＊日光研修所から楽しめる紅葉

◆夕食(一例)



○牛ステーキ単品、牛ステーキセットは2人前からご注文が可能です。
宿泊10日前までにご注文ください。



【問合せ先】
協栄会
外線：0285-44-6683
内線：2023

がんばれ、新社会人！ 新入職員紹介

質問

- ①就職前に比べて、生活や考え方等において、どんなところが変化しましたか？
- ②就職してから、心に残っている出来事は何ですか？
- ③初めての給料・ボーナスは何に遣いましたか？
- ④あなたの気分転換方法は何ですか？
- ⑤今後への抱負を一言お願いします。

今年度、本学に入職された方を今月号、来月号にわたり、ご紹介いたします。アンケート形式でコメントをいただきましたが、今月は次の9名をご紹介します。



卒後臨床研修センター レジデント 野口 朋子

- ①就職とともに初めての一人暮らしが始まったことが1番の大きな変化です。2月から3月に実家で洗濯や料理などの家事を母から教えてもらっていたので少し慣れてきていたところでしたが、就職して新しい環境での生活をしながら家事をこなしていくことは大変だと思っています。これまで一緒に暮らしていた家族の存在の大きさに改めて気づくことができました。そして、“自治医科大学附属病院で働く”という中学生の頃からの目標であり夢を現実にすることができて嬉しい気持ちでいっぱいです。この病院の医師であることに誇りを持って毎朝出勤しています。
- ②5月から入院していた患者さんが8月に退院される際に病室へお会いしに行くと、「先生には本当にたくさんお世話になりました。今まで出会った先生の中で1番話しやすかったです。」と涙を流しながらお話ししてくださったことです。研修する科が変わってしばらくお会いしていませんでしたが自分のことを覚えてくださっていて嬉しかったですし、医師として未熟な私は患者さんとお話することくらいしかできていないと思っていたので、少しでも患者さんのためになっていたのかなと感じることができました。
- ③初任給では家族とケーキを食べました。近くのショッピングモールにある“カフェコムサ”というお店のホールケーキを初任給でご馳走することが、大学に入学した頃からの家族との約束でした。ボーナスでは長野県にある白馬岳へ、大学の部活のOGとして夏山診療に行きました。
- ④ランニングをすることです。早起きをして出勤前にジョギングする日もあれば、退勤後にランニングする日もあります。土日や時間がある時には、隣の駅までの往復16kmを走ったり、自治医科大学の陸上部の学生さんと走ったり、地元の陸上クラブの練習会に参加したりしています。何も考えずにただただ走る時間がリフレッシュになっています。入職直後の4月に産婦人科の先生方とリレーマラソンに参加させていただき、とても楽しかったです。
- ⑤医師としての知識や技術はまだ十分ではありませんが、今後も研鑽を重ね、日々成長していきたいと思っています。そして、患者さんやご家族とのコミュニケーションを大切にするという初心を忘れずに、心に寄り添うことのできる医師を目指します。



さいたま・卒後臨床研修室 レジデント 堤 千佳

- ①初めての一人暮らしで大変なことも多かったですが、少しずつ慣れて以前より自立した考え方が出来るようになったと感じています。
- ②初めての当直です。わからないことだらけで不安でしたが、J2の先生方に優しくご指導いただき、無事に初当直を終えることができました。先輩方がテキパキと対応されている姿を見て、すごいなと感じるとともに、自分もこんなふうになれるようにと思いました。
- ③家族とご飯を食べに行きました！
- ④気分転換は、音楽を聴きながら散歩することと、友達とご飯を食べに行くことです！
仕事終わりに音楽を聴きながらゆっくり散歩すると、気持ちがリフレッシュされます。休日に友達と美味しいご飯を食べながら、たくさん話すのも楽しみのひとつです。
- ⑤臨床能力を身につけることはもちろん、日々の勉強を大切にし、知識もしっかり身につけながら、焦らず一歩ずつ成長していきたいです！



看護部（3階西病棟）看護師 六渡 小夏

- ①一人暮らしを始めたことで、家事や生活を自分で管理するようになり、自立した生活を意識するようになりました。仕事だけでなく、自分の時間も大切にしながら、メリハリのある生活を心がけています。
- ②産後のチームで働いていた際、日々のケアを通して関わっていた褥婦さんの赤ちゃんが光線療法を受けることになり、不安や辛さから涙を流されていました。これまでの関わりの中で少しずつ信頼関係を築けていたこともあり、その時はそばにいてゆっくりお話を伺いました。少し落ち着かれた後、「話を聞いてくれてありがとうございます。そばにいて話を聞いてくれたのがあなたでよかったです」と言っていたとき、とても嬉しかったことが心に残っています。この経験から、日々の関わりの中で信頼関係を築くことや、そばにいて気持ちを聴くことの大切さを改めて感じました。
- ③生活費に使ったほか、初任給で両親にご飯をご馳走しました。また、以前から欲しかった少し高めのバッグや服も購入し、社会人になったことを実感しました。
- ④買い物をしたり、ダンスをしたり、友達とご飯を食べに行ったりしています。特に友達とたくさん話して笑うと、自然と気持ちが切り替わり、リフレッシュになります。
- ⑤関わったすべての妊産褥婦さんに安心してもらえる助産師を目指して、日々学び続けていきたいです。



さいたま・看護部（5A病棟）看護師 石原 拓実

- ①患者さんを受け持つ中で、観察やその根拠を理解するために、部署で提示された課題だけでなく、自主的に学ぶようになったことです。実際に患者さんに関わる中で、自分の知識不足を実感し、必要なことを自ら考えて学ぶ姿勢が大切だと感じました。
- ②初めて患者さんを受け持った日が印象に残っています。注射や日々の観察、アセスメントを実際に行い、自分が看護師として患者さんに関わっていることを実感しました。同時に看護師としての責任を感じたことを覚えています。
- ③初めての給料では、友人や家族との食事や趣味に使いました。趣味の野球観戦では、学生の頃より少し良い席で観戦するなど、社会人になったことを実感しました。ボーナスは夏に行く旅行の費用に充てました。
- ④休みの日には好きな音楽を聴きながらトレーニングすることで、仕事のことを一旦忘れてトレーニングに集中したり、早く寝ることで翌朝にはリフレッシュして起きられるようにしています。
- ⑤まずは日々の業務を一つひとつ確実に覚え、仕事に慣れていきたいです。少しずつでもできることを増やし、自身の成長を重ねることで、患者さんに頼ってもらい、安心してもらえることにつながればと思います。



さいたま・看護部（3A病棟）看護師 金澤 陽奈

- ①初めての一人暮らしを始めたことが大きな変化です。仕事終わりに家事を自分でやらなければならなくて大変でしたが、寮を利用しており、病院が近いことで自分の時間をしっかり確保できるため、仕事もプライベートも良いバランスをとりながら充実して過ごすことができています。
- ②受け持ちが始まり業務を実施する中で不安が大きかったのですが、患者さんが自分の名前を覚えてくれて、退院時に感謝の言葉を伝えてくださったときです。子どもたちと関わる中での笑顔が頑張る源になっています。
- ③初めての給料で財布を購入し、ボーナスは長期休暇での旅行のために貯金しています。
- ④友人や家族に会い、たくさん話すことです。
- ⑤今、感じている新鮮な感覚や発見などの、初心の気持ちを忘れずに学び続け、患者と家族の最善の看護について、考え続けることができる看護師を目指していきたいと思っています。



リハビリテーションセンター 理学療法士 松田 大邦

- ①学生時代に比べて、自分の行動や判断が患者さんのリハビリに直接関わるため、より責任感を持って行動するようになりました。また社会人として時間管理や報連相を意識するようになりました。
- ②初めて患者さんを受け持たせていただいたことです。初めはすごく緊張しましたが、リハビリを通して患者さんから「ありがとう」と感謝の言葉をいただけたことが嬉しく、心に残っています。
- ③両親にプレゼントを買いました。
- ④友人とご飯に行くこと、ライブに行くことです。
- ⑤まだまだ未熟ではありますが、一つひとつの経験を大切に積み重ね、患者さん一人ひとりに寄り添った理学療法を提供できる理学療法士を目指していきたいです。



さいたま・臨床工学部 臨床工学技士 羽田 瑞穂

- ①就職を機に一人暮らしをはじめ、これまで当たり前だと思っていた家事や生活は家族の支えがあって成り立っていたのだと実感しました。また、臨床工学技士として働く中で自分の一つひとつの行動や手技が患者さんの命につながることを日々感じ、責任をもって行動するようになりました。
- ②透析患者さんから、「できることが増えてきて動きもよくなっているし、羽田さんだと安心するよ」と声をかけて頂いたことが心に残っています。患者さんに自分の成長を認めていただけた事がとても嬉しく、これからも技術だけではなく、患者さんとの関わりを大切にできる臨床工学技士でありたいと思いました。
- ③初めての給料は引っ越し費用や一人暮らしに必要な家具・家電の購入に充てました。初めてのボーナスでは、これまで支えてくれた家族への感謝の気持ちを込めて食事をご馳走しました。
- ④気分転換方法はランニングと、野球観戦、そして実家の2匹の愛犬と過ごす時間です。ランニングで体を動かしたり、球場で大好きな野球を観戦することでリフレッシュしています。実家に帰って愛犬たちと過ごす時間も、私にとって最高の気分転換です。
- ⑤一つひとつの経験を自分の成長につなげ、知識や技術だけでなく、人としても信頼される臨床工学技士になりたいです。



学事課 主事 鈴木 日菜子

- ①生活リズムが整い、早寝早起きの習慣が身につきました。また、何事も計画立てて考えるようになったのも大きな変化です。
- ②入学式の日が印象に残っています。大学に入学してきた新入生の様子を見て、新生活のはじまりを感じるとともに、学生から社会人になったという実感が湧きました。
- ③家族でごはんに行きました。
- ④友人と美味しいものを食べに行ったり、自然を感じに出掛けたりすることです。実家で飼っている猫にもいつも癒されています。
- ⑤一つひとつの業務に丁寧に取り組み、安心して業務を任せてもらえるようになりたいです。学び姿勢を大切に、日々努力していきます。



さいたま・医事課 主事 西村 美紗叶

- ①仕事の日だけでなく休日も規則正しい生活を送るようになり、時間の使い方を意識するようになりました。仕事とプライベートのメリハリをつけて計画的に過ごすことを心がけています。
- ②最初はわからないことが多く、難しく感じる業務ばかりでしたが、先輩方に教えていただき、以前はできなかったことが少しずつできるようになったことが心に残っています。
- ③新しく家具を購入しました。以前から欲しかったものを購入することができたので嬉しかったです。
- ④友人と美味しいご飯を食べることや出かけたりすることです。同期と集まってお昼ご飯を食べることも最近の楽しみになっています。
- ⑤これからも多くのことを経験し、先輩方からも多くのことを学ばせていただきながら、少しずつできることを増やしていきたいです。



お忙しい中ご協力いただき、ありがとうございました。
引き続き来月号でもご紹介いたします。



第55回 薬師祭実行委員会からのお知らせ

学生課

アミューズメント・フレンドパーク

10月9日(金) 17:00~19:00

10月10日(土)・11日(日) 9:00~17:00

今年も射的やスーパーボールすくい、移動動物園などお子さんたちが楽しめる企画を行います。無料で楽しめる企画もあります。皆様のご来場をお待ちしております！



花火

10月10日(土) 19:30~19:45 (15分程度)

今年も毎年好評の打ち上げ花火を実施します。迫力満点の花火をぜひ見にいらしてください！

※荒天時には翌日の10月11日(日)に延期する場合がございます。

随時、ホームページや各種SNSをご確認ください。

※当日は大変混雑が予想されますので、お早めにご来場ください。



フォトコンテスト

募集期間：10月10日(土)~10月16日(金)

内容：打ち上げ花火の実施にあわせて、2年ぶりにフォトコンテストを開催します。

当日の花火が写っていればどのような写真でも応募可能です。花火の輝きを、ぜひ薬師祭の思い出とともに写真に収めてください。なお、入賞作品は11月上旬にホームページおよびSNSで発表します。

入賞者には景品をご用意しておりますので、皆さん奮ってご参加ください！

応募方法：以下のGoogleフォームのQRコードを読み込んでご応募ください。

募集期間外の応募は選考対象外です。ご注意ください。



フォトコンテストについてのお問い合わせ：

第55回薬師祭実行委員会花火部門 setsubi.kyoku@gmail.com

※詳細な応募要項につきましては、ホームページにてご確認ください。

前夜祭

日時：10月9日(金) 17:00から

内容：今年は昨年よりも進化したフィジーク大会、女装企画、イケメン企画、さらには学年ダンスや音楽ステージなどで薬師祭1日目の夜を華々しく彩ります！

中夜祭

日時：10月10日(土) 16:30から

内容：今年もOBOGの皆さまや協賛企業の皆さまのご協力により、ビンゴ大会で豪華景品を多数ご用意しています。なかでも目玉賞品は、迫力あるサウンドをご自宅で楽しめる高性能スピーカーです。学内外を問わず、たくさんの皆さまのご参加を心よりお待ちしております！

後夜祭

日時：10月11日(日) 16:30から

内容：部活対抗やクイズ企画、パレエや能楽などによる芸大会、そしてM6N4によるステージなどで3日間 にわたる薬師祭のフィナーレを飾ります！

お笑いLIVE

日時：10月10日(土) 13:00~14:00 (予定)

場所：医学部教育・研究棟1階 講堂

内容：今年は吉本興業所属の芸人さんをお招きし、お笑いライブの開催を予定しています。今回は屋内開催で、全席指定のためチケットをご購入の方のみご観覧いただけます。

出演者やチケットの詳細は順次ホームページやSNSでお知らせしますので、ぜひチェックしてください。皆様のご来場を心よりお待ちしております！

医療展

日時：10月10日(土)・11日(日) 10:00~16:00

内容：医学部教育・研究棟1階にて医療・人体に関する体験・展示を行います。

【体験】採血、縫合、腹腔鏡、超音波検査、聴診、筋肉量測定

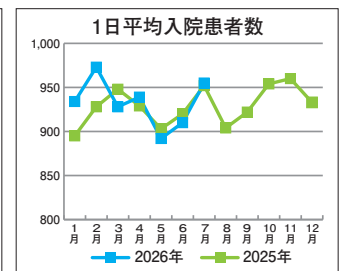
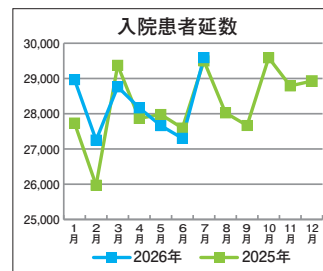
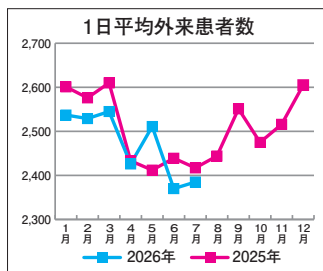
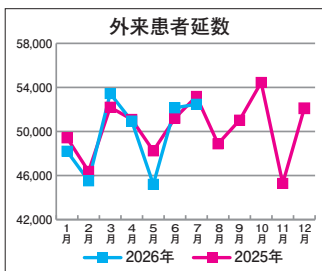
【展示】寄生虫標本、救急車の見学



患者数状況

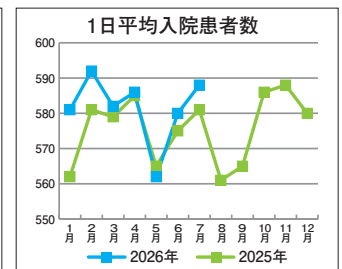
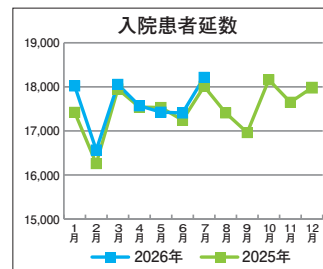
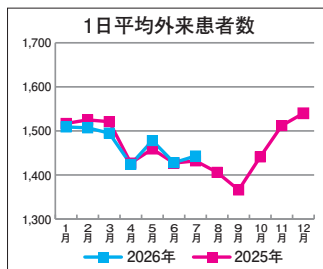
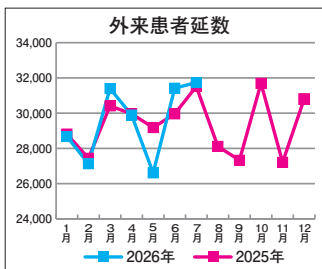
附属病院

区分 月	外 来 患 者 数				入 院 患 者 数			
	延 数 (人)		一日平均 (人)		延 数 (人)		一日平均 (人)	
	2026年	2025年	2026年	2025年	2026年	2025年	2026年	2025年
1 月	48,208	49,423	2,537	2,601	28,967	27,735	934	895
2 月	45,519	46,376	2,529	2,576	27,252	25,972	973	928
3 月	53,443	52,204	2,545	2,610	28,763	29,374	928	948
4 月	50,945	51,095	2,426	2,433	28,166	27,869	939	929
5 月	45,202	48,239	2,511	2,412	27,663	27,978	892	903
6 月	52,146	51,210	2,370	2,439	27,302	27,593	910	920
7 月	52,471	53,184	2,385	2,417	29,592	29,498	955	952



附属さいたま医療センター

区分 月	外 来 患 者 数				入 院 患 者 数			
	延 数 (人)		一日平均 (人)		延 数 (人)		一日平均 (人)	
	2026年	2025年	2026年	2025年	2026年	2025年	2026年	2025年
1 月	28,674	28,814	1,509	1,517	18,021	17,422	581	562
2 月	27,131	27,441	1,507	1,525	16,566	16,258	592	581
3 月	31,399	30,414	1,495	1,521	18,057	17,951	582	579
4 月	29,895	29,961	1,424	1,427	17,571	17,540	586	585
5 月	26,612	29,183	1,478	1,459	17,426	17,532	562	565
6 月	31,417	29,962	1,428	1,427	17,407	17,245	580	575
7 月	31,739	31,514	1,443	1,432	18,216	18,011	588	581



報道機関等への出演・掲載情報

本学の取り組みや医療関連業務、
医師・看護師等に対する取材、
報道機関への出演・掲載情報をお知らせします。

【新聞・雑誌等】

掲載日	媒体名	コーナー名・タイトル等	所属・氏名
7月29日(水)	下野新聞	地域枠入学 思い発表	医学部1年生 風間星空
8月16日(日)	読売新聞	病院の実力289 前立腺がん	附属病院
8月16日(日)	下野新聞	夏休みの体験輝く高校生	自治医科大学
8月18日(火)	朝日新聞	ラジオ第2がなくなって	総合教育講座(哲学) 教授 小野純一
8月23日(日)	読売新聞	病院の実力～栃木編219前立腺がん	附属病院

【テレビ・ラジオ等】

放送日時	媒体名	番組名等	所属・氏名
8月24日(月)	フジテレビ	「ノンストップ!」	栃木県災害医学寄附講座 特命教授 松村福広

※企画広報課で把握している内容を掲載しております。

※報道機関から、企画広報課を介さずに取材・出演依頼や掲載許諾があった場合は、お手数をおかけしますが、企画広報課までご連絡ください。



協栄会からのお知らせ



ファミリーマートのお知らせ

10種類のスパイスによる豊かな香りと
さわやかな酸味、お肉の旨みが広がる
中華まんです。
本格的なタコスの味わいをワンハンドで
お楽しみいただけます。



スパイス香るタコスまん
176 円 (税込 190 円)

●宝くじ ☆Jプラザにて好評発売中! ☆

[illegible]

スクラッチ

[illegible]

普通くじ

●スターバックス

販売期間 9/9（水）～ 販売開始



※画像はイメージです

■商品名/価格/商品情報

STARBUCKS 1971 DARK ROAST®

250g ¥1,880 100g ¥860（税込み）

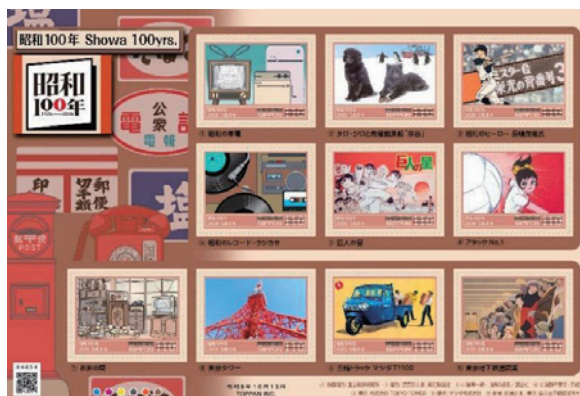
豊かなコクに、クルミや焦がした砂糖のような香ばしい甘みが長く続く、深みのある味わい。

まもなく本格的な秋がくる季節に、スターバックスが1971年の創業当初から受け継ぐ、ダーク ローストへのこだわりをお楽しみください。

●簡易郵便局

特殊切手「昭和100年」

発行日：10月13日（火）



2026年が昭和に改元されてから満100年の年に当たることを記念して、特殊切手「昭和100年」を発行します。

昭和の家電や、昭和に開業された東京タワー、地下鉄などのイラストが描かれています。

※シート単位の発売です。

1,100円（シール式）

詳しくは、簡易郵便局の窓口にお問い合わせください。内線2145・2146

●フローリスト野沢

観葉植物や定番の花束のご用意
各種取り揃えております。

詳しくは店頭にてお確かめください。

（内線：2070）



★協栄会では教職員の福利厚生業務の一部を行っています。本館地下1F事務所までお気軽にお越しください。

★Jプラザ2F、本館地下1Fでは出店業者による販売を実施しておりますので併せてご利用ください。

建学の精神

全国の都道府県が共同で設立した自治医科大学は、医療に恵まれない地域の医療を確保し、地域住民の保健・福祉の増進を図るため、医の倫理に徹し、かつ高度な臨床的実力を有し、更に進んで地域の医療・福祉に貢献する気概ある医師を養成するとともに、併せて、医学の進歩を図りひろく人類の福祉にも貢献することが建学の精神である。

附属病院の理念・基本方針

[理念]

- 1 患者中心の医療
- 2 安全で質の高い医療
- 3 地域と連携する医療
- 4 地域医療に貢献する医療人の育成

[基本方針]

- 1 患者の皆様の権利を尊重し、信頼される医療を提供します。
- 2 患者の皆様に満足いただけるような医療を組織全体で提供します。
- 3 地域における医療の連携を深め、お互いに顔の見える関係を築きます。
- 4 地域における持続可能な医療に貢献する人材を育成します。
- 5 医療資源を有効に活用し、健全で持続可能な病院運営に努めます。

附属さいたま医療センターの理念・基本方針

[理念]

- 1 患者中心の医療
- 2 安全で質の高い医療
- 3 地域に根ざした医療
- 4 心豊かな医療人の育成

[基本方針]

- 1 患者の皆様に尊重し、開かれた安心できる医療を提供します。
- 2 チーム医療を推進し、安全で質の高い医療を提供します。
- 3 地域との連携を深め、基幹病院としての役割を果たします。
- 4 地域医療に貢献する医療人を育成します。

編集委員会より

読者の皆様の声をお聞かせください！

学内広報編集委員会では、より良い広報誌作りのために、読者の皆様からのご意見やご提案を募集しています。

掲載された記事に対するご感想、今後お読みになりたい記事のご要望、「随感」や「教室・職場案内」に登場してほしい執筆者やテーマのご推薦などもお待ちしております。

方法は、次のいずれでも結構です（匿名可）。より身近で有用な「学内広報」作りに、是非、皆様もご参加ください。

Tel：内線 3431

外線 0285-58-7026

Fax：0285-44-8169

E-mail：gakunaikouhou@jichi.ac.jp

[担当：企画広報課]

表紙・記事募集のお知らせ

「表紙写真」、「お知らせ」、「教室・職場案内」など、学内広報掲載記事も随時募集しています。絵の投稿も歓迎します。

通常の「お知らせ」記事は、原則として

・毎月 25 日締切

・翌月 10 日付け発行号に掲載

となります。

詳しくは、企画広報課（内線：3431）までお問合せください。

編集後記



暦の上では秋のはずの9月ですが、まだまだ蒸し暑い日が続いていますね。皆さま体調はいかがでしょう。私は何年かぶりの夏風邪が長引き、「一晩寝れば治っていたのに…」とショックを受けております。

さて今月は、地域医療学センター長の後藤先生に「就任のごあいさつ」を執筆いただきました。岐阜県を中心に30年以上地域医療に従事し、まさに「医療の谷間に灯をともし」を体現されてきた先生です。

岐阜県といえば戦国時代の舞台！私も大河ドラマやゲームの影響で城巡りにハマリ、金華山を登山したことがあります。若気の至りで最難関コースを選んでしまい大変な岩山でしたが、3時間かけて見られた天守閣からの眺めは忘れられません。ちなみに帰りは力尽きてロープウェイに乗ったところ、わずか5分で下山となりました。「スポーツの秋」ですので、みなさまもぜひ挑戦してみてください。（kobachi）

